

俳句を写真画像と共に楽しむ 〈奇数月28日発行〉

●しゃらくかい 写楽同会

令和6年 夏の号 [vol.88]
(7・8月)

<https://isamusouma.web.fc2.com/>

投稿先; kinuko_thompson@hotmail.com

© 2024 Sharakukai



イメージ写真

夏(7・8月)の兼題「氷水・かき氷」 出題: マム

写真俳句の部

(掲載ランダム)



縁側の
木洩れ陽ゆれてかき氷

縁側の木洩れ陽ゆれてかき氷

(季語: かき氷=夏)

水澄



削り氷に
平安の雅ゆめみし

(季語: 削り氷=夏)

池福楼

[あの紫式部も好んで食したというかき氷、1000年の悠久の時を経て]



かき氷匙に崩れて紅の湖

かき氷匙に崩れて紅の湖

(季語: かき氷=夏)

福来雀



モヒートのカリブ魔術や熱帯夜

モヒートのカリブ魔術や熱帯夜

(季語: 熱帯夜=夏)

陽閑



遠き夏足ふらりんとかき氷

(季語: かき氷=夏)

iSAMU

[これは 阿左美冷蔵 金崎本店の天然氷のかき氷です。一時の清涼感を齎してくれます。阿左美冷蔵は 1890 年創業の老舗です。]



ふわふわの雲にシロップかき氷

(季語: かき氷=夏)

久芽



今どきの見た目華やかかき氷

(季語: かき氷=夏)

千泉



かき氷クラッシュロックで昼酒を

(季語: かき氷=夏)

梵木



キーンときて匙の止まりしかき氷

(季語: かき氷=夏)

準坊



駄菓子屋の氷の旗も昭和かな

(季語: 氷旗=夏)

昼寝覚

俳句の部

(掲載ランダム)

幼子の青かき氷口染めし 陽閑 (季語：かき氷=夏)

旗もなくかき氷売るレストラン 昼寝覚 (季語：かき氷=夏)

君の髪濡れてレモンのかき氷 一枝 (季語：かき氷=夏)

白きシャツ氷いちごを食べこぼし 準坊 (季語：氷いちご=夏)

かき氷うまさは水と知る帰国 マム (季語：かき氷=夏)

綿飴のとなりで回るかき氷 池福楼 (季語：かき氷=夏)

散歩道寄り道誘う氷旗 水澄 (季語：氷旗=夏)

ちゅうあいすクラスに配り夏休み 福来雀 (季語：夏休み=夏)
[孫の小学校の終業日。]

歯にしみるかき氷食べほほおさえ 千泉 (季語：かき氷=夏)

人気店順番待ちのかき氷 久芽 (季語：かき氷=夏)

かき氷水に浮かべて素麺を 梵木 (季語：かき氷=夏)



季語解説

かき氷 (かきこほり) = 氷水 (こほりみず)・夏氷・氷小豆・氷苺・氷店・削氷。

削った氷にシロップを加えたり茹小豆・餡・白玉・抹茶などを入れたもの。かつては氷を匏 (かんな) で削ったが、現在はほとんどが機械削りになった。氷水が流行し始めたのは、明治四、五年ごろから。【夏】

氷旗 (こほりばた) = 氷旗は氷水の傍題。夏になると街のあちこちの店先に「氷」と白地に赤く染め込まれた氷旗を見かける。夏の到来を告げるシンボルマークでもある。氷旗が、折りからの風に靡いている様にも涼味がある。【夏】

福朱雀

両極の融け止まらない温暖化 [気候危機より自国ファースト]

息止まるフラパチーノのめっちゃ^び冷え [スタバで死ぬかと思った]

池福楼

目に蚊飛び耳にセミ鳴く傘寿かな [体の中に昆虫館、にぎやかなものです]

女房どの小言無い日はちと寂し [愚痴、小言が活力源]

仕分けする人が都民に仕分けされ [3番ではいけないですか?]

準坊

メモ書きの電話番号誰だっけ [電話して確認もチト怖い]

スマホ何処? 鳴らしてみて! が日課かな [何処に置いたかすぐ忘れ]

陽閑

かき氷溶かし飲んでも渋い顔

引かれゆく人が散歩か犬なのか

夜な夜なに口ミオと叫ぶ犬主人

季語刻々

坪内 稔典

毎日新聞のコラム季語刻々という囲みに「かき氷」の兼題で紹介がありましたので掲載しておきます。

舌まつか嘘つき妻がかき氷

筑紫 坂井

2024/7/11

真っ赤なウソという慣用語を踏まえ、かき氷の赤色に染まった妻の舌をみて、ウソつきの正体が見え見えだ、と面白がっている。ちなみに、「赤」には全く、完全なという意味がある。「赤裸」「赤の他人」などの「赤」がそれ。作者の筑紫さんは今日の代表的な俳句評論家。近著に「戦後俳句史」がある。

浅草の赤たつぷりとかき氷

有馬 朗人

2024/7/12

浅草の赤といえば、ただちに雷門を連想する。大ちょうちん、門柱などが赤い。今日の句、浅草を象徴するようなその赤色のかき氷を食べている風景。「たつぷり」とに豊かさや満足感がある。「有馬朗人全句集」から引いた。作者は物理学者、そして東大学長、文部大臣などをつとめた多才な俳人。2020年世界。



秋(9・10月)の号 兼題「秋の色」

イメージ写真:iSAMU

- iSAMUさんより秋9・10月号の兼題を「秋の色」と出題していただきました。隔月という課題になりますが季節は幅広く捉えて自由に発想を広げて作句をお願いします。

締め切りは令和6年9月20日です。

- 写楽句会にご意見、ご希望等ございましたらお知らせください。

下記のiSAMUさんのホームページから「写楽句会」をクリックして頂くと写楽句会のバックナンバーが閲覧できます。

<https://isamusouma.web.fc2.com/>

写楽句会 連絡先: kinuko_thompson@hotmail.com

© 2024 Sharakukai